

学級担任のまなざし 20

Okayama Prefectural Education Center

R2.7. 3(Fri)

「整理整頓」

ある学級の1時間目の授業は、毎日国語で、漢字ドリルで始まります。1時間目のチャイムが鳴り始めると同時に、読書タイムに読んでいた本を机の中に片付け、チャイムが鳴り終わるまでには、すでに1文字目の練習を開始している子どもがいます。多くの子は、その30秒後ぐらいから開始し、数人は3分ぐらいたってから漢字ドリルを開き始めます。

この違いはなぜなんだろうと思い、何日か観察していると、ようやくその違いの原因が分かりました。「机の中の教科書やノートが一番上に、漢字ドリルを置いている」ことでした。なんだそんなことか、と思いましたが、取りかかりの早い子どもはみんなそうでした。先を見越した整理整頓ができていたのです。

教室には、片付けや整理整頓が苦手な子どももいます。その担任も「ちゃんと片付けなさい。」と叱っていましたがうまくいかず、先輩教員に相談し、毎日の帰りの会の最後に、1分間の「片付けタイム」を行うことにしました。机の中のものを一旦、全部机の上に出し、ゴミをその場で捨て、家に持ち帰るものをすぐにランドセルにしまえます。きちんとそろえ、机の中に戻します。

一人ではうまくできない子は友達が手伝ってくれます。「あまり使わない色鉛筆は奥に入れるといいよ」と教えてくれます。もちろん、担任が手伝うこともあります。苦手な子どもにとっては、手伝ってくれている様子を見ることも大切な勉強です。片付け方やコツを真似るチャンスになります。3か月ぐらい続けていると、「片付けタイム」は1分間もかからなくなり、「机の中は大丈夫ですか？」と声をかけるだけで済むようになります。

「ちゃんと片付けなさい。」と叱るだけでは、何をどうすればよいのか分からない子がいます。学ぶ場を作り、その場でやらせ、一緒にやり、続けていくことが大切です。